

月刊

2022 2

# 公論

世界の視点で  
情報を発信する  
総合誌

**史上最大の巨大予算を  
岸田首相は成長と分配に繋げよ**

**提言** 本誌主幹 **大中 吉一**

連載 **政界展望** ジャーナリスト **鈴木 哲夫**

主体性や理念が疑われる岸田政権 参院選へ向け、各党が動き始めた

**特別寄稿** (株)人間と科学の研究所 所長 **飛岡 健**

2021年の総括から2022年の展望へ(前編)

**TOPインタビュー⑱** 株式会社タカラレーベン 代表取締役 **島田 和一氏**

不動産総合デベロッパーが目指す地方創生とグループ全体の成長

日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社  
代表取締役社長

**野津 基弘氏**



株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー  
取締役マーケティングダイレクター

**鈴木 秀樹氏**



**目標は鹿島から  
世界を目指す**



**アントラーズの使命は地域バリューを上げること**

50	42	36	34	28	26	24	22	20	18	6	3
列島いんふおめーしょんPLUS 第2回「半導体の製造拠点」 企業誘致戦略と国家戦略の狭間で 熊本県	列島いんふおめーしょんPLUS	シリーズ TOPインタビュー⑱ 不動産総合デベロッパーが目指す地方創生とグループ全体の成長 株式会社タカラレーベン 代表取締役 島田和一	連載◎医療最前線 長尾和宏の「生」と「死」 「聞く力」から「変える力」へ 医学博士 長尾和宏	連載◎政界展望 主体性や理念が疑われる岸田政権 参院選へ向け、各党が動き始めた ジャーナリスト 鈴木哲夫	連載◎欧州からニッポンを見る(317) 日本のコロナ水際対策で露呈したマネジメント不在 在仏コラムニスト 安部雅延	Ⅳ 伝えない日本のマスメディアと衰退する日本 山本玲子	Ⅲ 2022年の世界と日本 参院選と新冷戦 政治アナリスト/元杏林大学教授 豊島典雄	Ⅱ 出口に向かう世界経済リスクはないか、FRBの物価戦争 経済ジャーナリスト 八雲豊彦	Ⅰ バイデン氏の憂鬱 ジャーナリスト 泉 洋海	リレー対談	提言

84	82	80	78	74	56	52
関西電力株式会社 オープンイノベーションの拠点 新たな形態で再発信	連載◎グリーン交悠録 長嶋茂雄氏との出会いと思い出 今年も素晴らしいゴルフ交悠録を 本誌主幹 大中吉一	サントリー美術館 御大典記念特別展 「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―開催	株式会社セブン&アイ・ホールディングス 子どもたちが描いたイラストで未来を幸せに オリジナル商品の共同企画 第2弾	連載◎未病漢方事始め④ 健康な時に将来の病気の危険性に気をつける 修善堂大塚医院 渡辺賢治	特別寄稿 2021年の総括から2022年の展望へ(前編) (株)人間と科学の研究所 所長 飛岡 健	連載◎防災の世界を解剖する(54) 災害から在日外国人を守る 日本の防災体制を外国人に伝える工夫 一般社団法人AD1災害研究所 理事長 伊永 勉

『月刊公論』電子版がスタート。  
下記QRコードをご参照ください。  
【QR】  
<https://www.kohronarc.jp/>



6

リレー対談

目標は鹿島から  
世界を目指す

アントラーズの使命は  
地域バリューを上げること

鈴木秀樹氏

株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー  
取締役マーケティングダイレクター

野津基弘氏

日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社  
代表取締役社長

3

提言

史上最大の巨大予算を  
岸田首相は成長と分配に繋げよ

本誌主幹 大中吉一

28

連載◎政界展望

主体性や理念が疑われる岸田政権  
参院選へ向け、各党が動き始めた

ジャーナリスト 鈴木哲夫氏

36

TOPインタビュー⑱

企不動産総合デベロッパーが目指す地方  
創生とグループ全体の成長

株式会社タカラレーベン  
代表取締役 島田和一氏

56

特別寄稿

2021年の総括から2022年の展望へ(前編)

(株)人間と科学の研究所 所長 飛岡 健氏



健康な時に

将来の病気の危険性に気をつける

修琴堂大塚医院 渡辺賢治

未病という言葉が耳にされたことはあるでしょうか？その字のごとく、「未だ病まざる」という状態を指します。それって健康のことじゃない？と思われるかもしれませんが、しかし、古来伝統医療の世界ではこの「未病」状態を重んじてきました。どういうことでしょうか？今回は漢方における未病の考え方について述べて、次回以降、その現代的意義について書かせていただきます。

漢方では 未病の治療を 最も重んじる

未病の文献的な記載は2000年前に遡ります。前漢代に編纂された『黄帝内経素問靈樞』には「上

しかし、本人に自覚がないと評価されません。中国の伝説的名医である扁鵲は3兄弟の医師の末弟でしたが、魏の国の文王に、3兄弟のうちで誰が1番名医かを尋ねられた時に、「長兄です」と答えて、その理由として以下のように述べたとされています。長兄が治療するのは、症状が生じる前で、この時病人は自分に病が有るとは感じず、それなのに長兄は投薬して病根を完全に除いてしまうので、彼の医師は人々から認められず、だから名が知られず、ただ我が家の中で賞賛されているだけなのです。」と。その扁鵲もある国の王様の未病を見抜き、治療を勧めたのですが、名誉欲のためにそん

工は未病を治し、已病を治さず（腕のいい医者は未病を治して、すでに病気になるものは治さない）（靈樞）とか「聖人はすでに病んでしまったものを治すのではなく、未病を治すものである。また国が乱れてしまつてから治めるのではなく、まだ乱れないうちによい政治を行うものだと古くからいわれる。病気になるきつてしまつてから薬を飲んだり国が乱れてから政治を行うというのはたとえていうなら咽が乾いてから井戸を掘ったり、戦いが始まつてから兵器を製造するようなもので、遅きに過ぎる。」（素問）と書いてあります。日本にも泥縄（泥棒が入つてから縄を結つても遅い）という言葉があります。コトが起こる前にしっかりと対処しておくことが重要とい

うことですが、これが病気にも当てはまるといえます。考えてみれば、自然災害などの準備もそうですよね。地震国である日本はいつでも地震があるか分かりませんが、日頃の準備とコミュニケーションを怠らないとそうでない人では命運を分けたいかねえ。サッカーの本田圭佑選手の名言に「勝負を決めるのは準備」という言葉がありますが、野球のイチロー選手にしても、一流のアスリートは試合以外の時間に入念な準備を怠りません。話が飛んでしまいましたが、古代の名医も、病気になる前の未病の段階でしっかりと予防することが、何よりも大切と考えていたのが分かります。

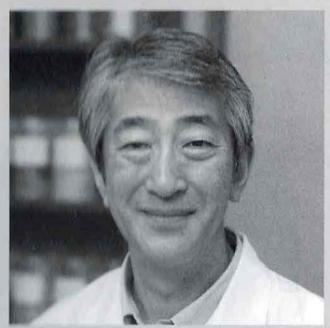
唐の名医孫思邈の「千金要方」序文では、医師を上中下の3つのランクに分け、「上医は国を治し、中医は人を治し、下医は病を治す」とあり、また、「上医は未だ病まざるの病を医し、中医は病まんと欲するの病を医す」とあります。腕のいい医者は病気になる前にその徴候をつかんで治してしまつて、いづれ病気になる前をどうやって治療するのだろうか、と思われるかもしれませんが、しかし、病気の症状が出る前に、わずかな徴候は既に出ていることがあります。名医はそれを見逃さないのです。

未病の治療は 感謝されない

なことを言っているのだろうと取り合つてもらえませんでした。病気が進行して症状が出たときには、もう治せない段階であることが分かつたので、姿を隠してしまいました。本人の自覚症状がないのに治療するのが難しいですが、この段階で治療するのがいちばん効率的なのです。さて、これは伝統医療の古臭い世界でしょうか？いえいえ、今でも、いやむしろ今だからこそこの未病の考えは重要だと思えます。

秦の始皇帝が不老不死を願つて徐福という方士を東方に派遣して、日本にまで来た、という伝説が日本各所に残っていますが、残念ながら不老不死は夢の世界の話です。人間は

生まれたからには必ず死がついてきます。極端な話、生まれた瞬間に老化が始まつて死に向かつていってしまつても過言ではありません。以前学会で、中学生の血管の硬さを測定した発表があり、既に早い子は中学生で動脈硬化が始まつているというデータをみてショックを受けた覚えがあります。私たちは日々の健康に満足してしまひ、体の中で起きている変化については無関心です。しかし、病気になるかどうかは、日々の生活で決ま



わたなべけんじ 渡辺賢治

慶應義塾大学医学部卒。慶應義塾大学医学部内科、東海大学医学部免疫学教室に国内留学後、米国スタンフォード大学遺伝学教室に留学。帰国後北里研究所（現北里大学）東洋医学総合研究所、慶應義塾大学医学部漢方医学センター長、慶應義塾大学環境情報学部教授を経て、1931年に開設された漢方専門医院、修琴堂大塚医院院長に就任。横浜薬科大学特別招聘教授、慶應義塾大学医学部漢方医学センター客員教授、奈良県顧問、神奈川県顧問、漢方産業化推進研究会代表理事、日本臨床漢方医会副理事長、WHO医学科学諮問委員、WHO伝統医学分類委員会共同議長等を兼ねる。1900年以来、西洋医学のみだった国際疾病分類の第11改訂（2019年）に、伝統医療が初めて取り入れられたが、2005年からプロジェクトの共同議長として長年尽力。主な著書に『漢方医学 同病異治の哲学』（講談社学術文庫）、『未病図鑑』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）、『漢方で感染症からカラダを守る』（ブックマン社）など。



渡辺賢治先生の近著「未病図鑑」